

プロが教える

洗車とボディケアの常識、非常識。

ようやく長い冬も明け、洗車をするにはよい季節になってきた。そこで今回は、洗車やコーティングなどクルマを綺麗にすることを生業としている、その道のプロが普段行なっている洗車を見せてもらった。愛車を綺麗に洗うための手順やコツとは？

Words 一帯津富佐雄 Photos 山田泰弘



プロが教える 洗車のコツ [実践編]



01



ホイールの洗浄

スタートはホイールから。ボディと同じ洗剤でざっくりと洗う。ブレーキダストなどしつこい汚れがあるときには、専用のホイールクリーナーで入念なクリーニングもする。組みつけボルトのような細部には細かいハケなどを使う。



02

下まわりの洗浄

続いて下まわり。腰下からボディ下面を水で流してからボディ用のシャンプーで洗う。タイヤハウス内やホイールアーチ裏の折り返しの部分まで忘れずに。



03

ボディの水掛け

本格的に洗車にかかる前に全体的に水をざっと掛ける。この時にルーフやボンネットのような上向きな面は必ず一定の方向に水が流れるように水を掛ける。



04



車体サイドのシャンプー掛け

ボディの洗車は縦面からパネルごとに行う。たとえばフロント右フェンダーパネル→右ドアパネル→右リアフェンダーパネルといったように。また洗いは、大きめのスポンジを使って、それぞれのパネルをフチ取るように洗ってから、フチの内側を洗う。



05

車体上部のシャンプー掛け

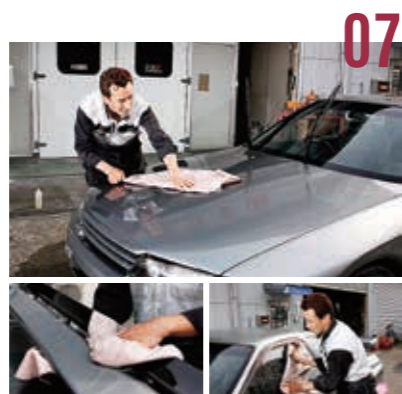
ルーフ、ボンネット、トランクなど上向きな面のシャンプーは最後。縦のパネルとは逆に面の内側を平行に洗ってからフチを洗うようにすると、洗い残しがなく効率的。



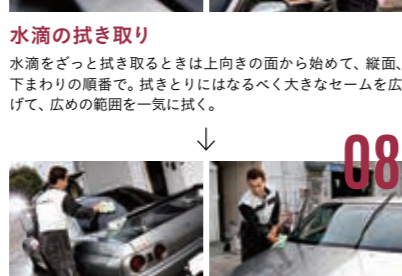
06

シャンプーの洗い流し

シャンプーの泡落としても、水を一定の方向に流し落とす。またドアミラーのステーやフロントグリルなどの細かい部分は水圧強めですすぎ残しを防ぐ。



07



水滴の拭き取り

水滴をざっと拭き取るときは上向きの面から始めて、縦面、下まわりの順番で。拭きとりにはなるべく大きなセームを広げて、広めの範囲を一気に拭く。



08

水滴の拭き上げ

さらに拭き上げるのも上面、縦面、下まわりの順番。吸水性がよく、塗装面をキズにつけにくいマイクロファイバークロスのようなウエスがよい。



09

目に見えない部分も忘れずに!

ボンネットの裏の溝やドアシルプレート、フューエルリッドの裏側などの拭き上げも大切だ。ボディに使ったマイクロファイバークロスよりも、さらに細かいタイプのクロスを使うと手早く、綺麗に拭き上げることができる。



10

ホイールの水滴を拭き取る

ホイールも「細かい部分」用のマイクロファイバークロスで水分を拭き上げる。スポークの裏やナット(ボルト)ホイールの裏、さらにタイヤハウスやフェンダーアーチ裏の水分もしっかり拭き取る。



11

洗車完了!

結構細かく洗っているように見えて、作業時間は約30分。どの方向に水を掛けて、どこから洗い出し、効率的に水分を拭き取る順番を決めて、適切な道具で洗車すると、短時間で作業は終わるのだ。

“ワザ”を披露してくれたプロ

今回、洗車のコツを教えてくれたのは、カーコーティングや革シートのリペアを専門とする『アル・ワン』の田中弘樹さん(写真左)。そして、撮影場所と洗車モデルとしてデモカー(スカイラインGT-R)を提供して下さった、R32~R34スカイラインのスペシャルショップ『カナザワ』の金沢廷好代表(写真右)。

[Source] (有)カナザワ
Tel.046-223-7319 Address. 神奈川県厚木市金田1060-1

オススメの洗車キット
『アークバリア21 愛車セット』
シャンプー、リンス、スポンジ、拭き上げクロスセットにした、ボディの輝きを保つためにプロが使っている洗車アイテム。
☎ 0120-34-3159
www.super-arkbaria.com

一般社団法人 日本自動車美容工業振興会
自動車販売、自動車整備、鍍金塗装、タイヤ&ホイール、自動車ガラス、自動車洗車業、コーティング、デントリペア、電装、内装補修、各種オイル、カーケア商品等、自動車美容技術に関する各商品の検証とその技術の向上。また、その事業で成り立つビジネス形態の確立を目的とする全国組織団体である。
本部：東京都港区元赤坂1-1-7 Tel.03-6434-5317 www.japan47carclub.com

「洗車はホイールやボディの腰下の部分から始めて、ルーフは最後に洗います。つまり下から上という順序ですね。そしてすすぎや拭き上げは逆に上から下へ作業します」
なぜならルーフから洗いだすと、下まわりにたどりつくころにはシャンプーしたままの状態の上のほうは乾いてしまっただけ。作業の起点を決めて、クルマを一周するように、パネルやパーツごとに洗っていくと、洗い残しなく洗車ができますよ」
これも手早く洗うコツ。
目からウロコ……だったかどうかわからない。ただプロに洗車を任せられないときには、ぜひ「シャンプーは下から上」と「拭きとりは上から下」への法則を思い出してほしい。もちろん「スポンジやウエス類は汚れていないものを……」といつていい。

「洗車はホイールやボディの腰下の部分から始めて、ルーフは最後に洗います。つまり下から上という順序ですね。そしてすすぎや拭き上げは逆に上から下へ作業します」
なぜならルーフから洗いだすと、下まわりにたどりつくころにはシャンプーしたままの状態の上のほうは乾いてしまっただけ。作業の起点を決めて、クルマを一周するように、パネルやパーツごとに洗っていくと、洗い残しなく洗車ができますよ」
これも手早く洗うコツ。
目からウロコ……だったかどうかわからない。ただプロに洗車を任せられないときには、ぜひ「シャンプーは下から上」と「拭きとりは上から下」への法則を思い出してほしい。もちろん「スポンジやウエス類は汚れていないものを……」といつていい。

「まあ、多少のコツと使いやすい道具、あとはいい洗剤(カーシャンプー)があれば、このクオリティで洗車はできると思いますよ」
田中さんの言葉には、いくらかの謙遜は混じっているに違いない。たとえば使用するカーシャンプーは、長年のトライ＆エラーの末にたどりついた業務用の逸品だ。シャンプー選びのヒントとして、ふつうの洗車は中性洗剤、油汚れはアルカリ性洗剤、ダストなどのこびりつき汚れは酸性洗剤というルールを覚えてくれた。
「ただしアルカリ性や酸性が強ければいいってものではありません。人体や環境に悪影響を及ぼすこともあります」
そして、洗車のコツも教えてくれた。
「洗車はホイールやボディの腰下の部分から始めて、ルーフは最後に洗います。つまり下から上という順序ですね。そしてすすぎや拭き上げは逆に上から下へ作業します」
なぜならルーフから洗いだすと、下まわりにたどりつくころにはシャンプーしたままの状態の上のほうは乾いてしまっただけ。作業の起点を決めて、クルマを一周するように、パネルやパーツごとに洗っていくと、洗い残しなく洗車ができますよ」
これも手早く洗うコツ。
目からウロコ……だったかどうかわからない。ただプロに洗車を任せられないときには、ぜひ「シャンプーは下から上」と「拭きとりは上から下」への法則を思い出してほしい。もちろん「スポンジやウエス類は汚れていないものを……」といつていい。